

似ているふたご・似ていないふたご

いつ頃から一卵性・二卵性という卵性が一般的に認識されるようになったのかわかりませんが（ふたごには一卵性と二卵性があるということを最初に発見した人が誰だか、どなたか教えていただけませんか?）、似ているふたごと似ていないふたごがあるということは、大昔から知られていました。たとえば、120年くらい前のドイツの百科事典にはちゃんと似ているふたごと似ていないふたごが存在すると書いてあって、「お一つ」と驚いたことがあります。

さて先日、男女のふたごのお父さんである昔の同僚と話す機会があり、色々な苦労話・笑い話を聞きました（まだ3歳ということで、まだまだ大変です）。その時話題になった話なのですが、家族で外出すると、かわいいふたごを連れてくるわけですから、やはりよく街の人たちに話しかけられるそうです。そうした場合必ず聞かれることは、どちらが上でどちらが下（どちらが先でどちらが後）ということと、一卵性なのか二卵性なのかということだそうです。「男女のふたごなのに、一卵性かと尋ねられるんだよ。信じられないよねー」と彼も苦笑していました。そういえば、僕たち兄弟も小さい時、ふたり一緒にいたり、自分がふたごだと明かした場合、かならずこの二つの質問を受けたものです。いやそれどころか、今でも相変わらずこの二つを尋ねられます。僕たち兄弟は、相当似ていましたので（現在は、ヒゲの有無で明らかに区別が可能）、間違いなく一卵性だろうということで、僕はいつも一卵性だと明かします。でも、「どちらが」という質問に対しては、上下あるいは兄弟とは言わずに、僕の方が先に生まれたと言うことにしています。先に生まれた、あるいは後に生まれたということは、物理的な事実として動かしようがありませんから、これはこれとして了解するしかありません。しかし、それを上下（うえ・した）、兄弟（あに・おとうと）と表現することには、ある特定の社会制度的あるいは家族制度的な考え方が入りますから、僕なりのこだわりもあって、そうした表現を僕は使いません。

ところで、さっき「相当似ていましたので、間違いなく一卵性だろう」と書きましたが、遺伝子的な卵性診断をせずにそう簡単に一卵性とか二卵性とか言えるのかという疑問をもつ方も出てくると思います。僕も実際、遺伝子を調べたことはありますかとよく質問されます。卵性についてはあまりこだわらずにふたごであるということだけでよいのではと思ったりもするのですが、まわりからあんまりしょっちゅう卵性について聞かれることもあり、自分は一卵性なのか二卵性なのか気にしているふたごの仲間も多いようです。これに関連するごく最近の体験を紹介したいと思います。ある後輩のふたご姉妹から、自分たちは一卵性の双子児だと思ってきたが、最近どんどん似ないようになってきて、本当に一卵性かどうか疑問に思う、簡単に調べる方法はないだろうかと相談を受けました。最初は、一卵性ふたごであっても、もの凄く似ている時期と類似性が少し薄れる時期があるので、あまり気にしない方がいいよとアドバイスをしようと思ったのですが、よっぽど調べたい様子だったので、結局、浅香・大木の簡易診断票を紹介しました。というのは、簡単な診断票ならまだしも、本格的に遺伝子を調べるとなれば、お金も時間も随分かかると思ったからです。この診断票は、山梨医科大学におられた浅香、大木両先生が開発されたもので、似ている=間違えられたということに基づいて誰にもすぐにできる簡単な診断票です（確率90%以上）。以下、掲載したいと思います。

質問票1（母親用）

あなたのふたごのお子さんが、およそ満一歳の頃のことを思い出してお答えください。A, B,

Cの各項目について当てはまる番号を一つずつ、丸で囲んでください。最後にその番号を合計してください。

A. ふたごは「うりふたつ」のように似ていましたか。

1. 「うりふたつ」のように似ていた。
2. 普通の兄弟姉妹程度に似ていた。
3. 全く似ていなかった。

B. ふたごは、当時、誰かに間違えられることがありましたか。

1. はい、非常にしばしば
2. はい、時々
3. いいえ、決して

C. その場合ふたごは誰に間違えられましたか。

1. 両親
2. 親類や近所の人
3. その他の見知らぬ人
4. 誰にも間違えられなかった

合計が、6点以下は一卵性双生児、7点以上は二卵性双生児と考えられます。

質問票2（双生児本人用、一人一枚ずつ）

子どもの時にあなたとあなたのふたごの相手が、どのように似ていたかについての質問です。

A, B, Cの各項目について当てはまる番号をひとつずつ、丸で囲んでください。最後にその番号を合計します。

A. あなたとふたごの相手は「瓜二つ」のように似ていましたか。

1. 「瓜二つ」のように似ていた
2. 普通の兄弟姉妹程度に似ていた
3. 全く似ていなかった

B. あなたとふたごの相手は子ども時代、まちがえられましたか。

1. はい、非常にしばしば
2. はい、時々
3. いいえ、決して

C. その場合あなたは誰に間違えられましたか。

1. 両親
2. 学校の先生達
3. その他の人たち

#### 4. 誰にも間違えられなかった

それぞれが合計したものをたしてください。13 点以下は一卵性双生児、14 点以上は二卵性双生児と考えられます。

ちなみに僕たちは、母親用が 4 点、自分たち用が 7 か 8 点で両者共に一卵性ということになります。特に、学校の先生たちには本当によく間違えられました。身に覚えのないことでもの凄く怒られたり、とんだとぼっちを受けたり、逆に与えたりしました。高校時代には、教室を入れ替わって授業を受け、後で担任に「俺たちには絶対にわからないから、頼むから二度としないでくれと」頼まれました。あれは楽しかった！

もう一つ卵性のことで印象深いことがあります。僕には、やはり一卵性双生児の親友がいます。あるとき、その友人にふたごについての天羽先生の著書を貸したことがありました。するとしばらくして、興奮した声で電話がかかってきました。長年の懸念が氷解したというのです。聞いてみれば、彼らふたご兄弟が産まれたとき医者がお母さんに「胎盤が二つだったから二卵性だ」と説明したというのです。でも、本当によく似ているので小さい時からよく間違えられ、実は自分たちは一卵性なのではないかと 30 年にわたり気になっていたそうです。実は、胎盤の数は卵性には関係ありません。その事実を僕が貸した天羽先生の著書で知り、積年の疑惑が解けたというわけです。繰り返しますが、僕は卵性にあまりこだわる必要は余りないと思っています。でも、まわりの人たちの興味・関心に影響されてか、ふたごの仲間の中には案外これを気にしている者たちもいるようです。そして、その際に、誤った知識で違った判断がされるなら、それはそれで大きな問題だと思います。このように、まだまだふたごに関しては医療従事者にさえ正確でない知識があるようです。さすがに、男女の一卵性のふたごというのは微妙ですが、ふたごについて医学的にも、育児に関しても、教育学的にも、そして心理的にも理解が深まる・広がることを心から望んでいます。もちろん、昔に比べて、ふたごに対する否定的な偏見はなくなりましたので、そのことは大いに喜んでいきます。

『ツインズぷらす』第 4 号（多胎育児サポートネットワーク）から転載・修正